

ファンづくりというビジネスモデルが

人をつなぐ、地域をつむぐ、社会をかえる

認定NPO 法人日本グッド・トイ委員会／東京おもちゃ美術館 理事長・館長 多田千尋氏

被災地支援をしたときのお話をしたいと思います。

私たちの仲間は全国に6000人おりますので、義援金を集めるのにはそれほど苦労はありません。しかし、それで終わっていいのかという疑問が湧きます。東京おもちゃ美術館として何ができるかを自問自答しました。

そして「遊びの環境を届けに行く」べきだという思いに至り、我々は被災地に出かけていきました。もともと陸前高田に仲間がたくさんいました。亡くなった方も多くいました。仲間の一人から電話があり、助けに来てほしいと言われました。

そこで、世界各国に呼びかけておもちゃを集めました。反響がすごくて数週間で1万点集まってきました。そこから100セット作って100か所に届けに行きました。これはとても好評で、さらに100セット作って欲しいと言われ、さらに1万点集める必要が出てきました。

しかし、民間企業の被災地支援疲れが出てきたことが感じられました。そこでメーカーへのおねだりを止めて、一般家庭に眠っている積木をどのようにして集めるかという知恵を絞りました。ありとあらゆるマッチングを考え、一般家庭に強いパルシステムを組むことになりました。

パルシステムは関東圏に100万人以上の組合員を持つ巨大生協のシステムです。毎日一般家庭に物資を届けています。パルシステムの側でも、自分たちはどういう形で被災地を支援すればよいか模索していたところだったので、すぐに話に乗ってくれて多大な協力をしてくれました。パルシステムの呼びかけに会員の皆様が熱意をもって応えてくれて、5000個の積木を集めるのにたった4日間でした。積木の他にも、組合員の方が買ってくれた一般おもちゃも含めて10000個が寄せられました。合せて15000個集まりました。

こういうことを通じて感じることは、企業の方々が自分たちの事業があまりにも身近すぎて自分たちの力に気づいていないということです。我々から見ると、企業はすごく魅力的なしくみやインフラをたくさんもっています。パルシステムにとっては個配をすることはあまりに当たり前すぎてそこに魅力があることを気づけなくなっているのかもしれない。毎日一般家庭に直接行くことは凄いサービスです。それなら、行くだけでなく一般家庭にあるものを捕まえてくるという発想もあるのではないかと我々NPOは考えるわけです。

そのようなマッチングは、これからはもっとたくさん起きていいのではないかと思います。NPOと企業がいろいろと付き合うことによって化学反応を起こして世の中のためにいいことを行うということをもっとたくましくやるべきだと思います。

東京おもちゃ美術館は3つの間（ま）を大事にしています。1つ目の間は、時間です。時間と言う間をどれだけデザインするか、例えば、全日空の方にプレゼンをしに行く時に、全日空の方々

の心を揺さぶるにはどういう時間をつくるべきなのか、あるいはおもちゃ美術館で活躍してくれるおもちゃ学芸員のためにどれだけワクワクする時間をつくり出すかといったことです。

2番目は空間です。空間の創出イコールデザインだと思っています。1にも2にもデザインです。デザインの優れた空間をつくることによって人々の心を動かす。なので、被災地支援の時もデザインだけは思いっきりお洒落なものにしました。九州新幹線のトータルデザインと七つ星をデザインされた水戸岡鋭治さんにデザインしてもらいました。硬質床材をつくり、畳6畳分ぐらいの広さに広げ、その上におもちゃを載せたのです。

被災地の方は、その時、心のどこかでそういうものに飢えていたように思いました。あたり一面、段ボールかブルーシートばかりだったわけですから、そういうところに鮮やかなデザインのも物が現れるとものすごく元気になっていくものだと思います。

最後は仲間です。これは特にボランティアの方々を孤軍奮闘させてはいけないわけで、一番こだわっているのは3人の仲間をつくって差しあげるということです。愚痴を言い合えとか、感動を分かち合える、お互いに笑い合うことができる仲間が3人は必要です。1人では感動を分かち合えないし、2人では対立軸になってしまうので、3人以上が良いと思います。

このような3つの間をデザインするということをおもちゃ美術館は心がけています。被災地支援に行くときも3つの間、病児の支援も3つの間、ミャンマーに行くときも3つの間と言うものでどうやってつくり上げていくかを重要に思っています。不思議なことにこの3つの間づくりに成功した時点で4つ目の間が下りてくるのです。その4つ目の間とは、世間です。別の言い方をするとコミュニティかもしれません。コミュニティが形成できるようになります。